

## 第602回建設技術講習会 現場研修事業の概要

### 1 嘉瀬川ダム建設工事

..... 佐賀市富士町

嘉瀬川ダムは、下流域の洪水被害の軽減、既得取水の安定化及び河川環境の保全等のための流量の確保、佐賀西部地域への農業用水、佐賀市の都市用水及び発電を目的とする多目的ダムとして建設されました。ダムの概要は、堤高99m、堤頂長456m、堤体積約977千 $m^3$ 、集水面積128.4 $km^2$ 、総貯水容量7,100万 $m^3$ の重力式コンクリートダムで、総事業費1,780億円、工期は昭和48年度に実施計画調査を始め、平成24年度より供用を開始しました。ダム建設にあたり、動植物の多様性に富む湿性地環境の再生・回復に取り組むなどの環境対策を行いました。また、ダム周辺には、地元の農産物等を販売する「ダムの駅富士しゃくなげの里」、地元で採れた山野草を使った料理を提供する「菖蒲御膳」及び45ホールを有する「パークゴルフ場」などが整備され、ダム湖（名称：富士しゃくなげ湖）ではボートやカヌーの利活用も盛んに行われており、九州の産業・文化の中心福岡市や県都佐賀市に近い利を活かし、水源地域の活性化に向けた取り組みが展開されています。



### 2 石井樋（石井樋地区歴史的な水辺整備事業）

..... 佐賀市大和町

石井樋は嘉瀬川から多布施川へ水を分ける取水施設で、昭和35年、上流に川上頭首工という取水施設がつくられるまで、約350年にわたり水不足や水害から佐賀平野を守り続けてきました。この施設は、成富兵庫茂安の指導により、元和年間（1615～1623）に造られました。取り入れられた水は佐賀城下の生活用水と農業用水として使われました。この施設は、土砂の混じった川の水を象の鼻、天狗の鼻など石で作られた施設を組み合わせ土砂を沈め、きれいな水にする工夫がされていました。この施設は日本でも最も古い利水施設のひとつであり、歴史的・文化的な価値が高い土木遺産のため平成17年に石井樋地区歴史的な水辺整備事業により復元されました。



### 3 巨勢川調整池（佐賀導水事業）

..... 佐賀市金立町

佐賀導水事業は、筑後川、城原川、及び嘉瀬川を導水路（管路及び開水路）で連絡する流況調整河川（総延長：約23km）で、洪水調節、内水排除、流水の正常な機能の維持（河川維持流量及び河川水質浄化）水道用水への補給を目的としています。この事業の核となる巨勢川調整池は、佐賀県都である佐賀市の洪水被害軽減と内水被害軽減を図る重要な施設です。巨勢川調整池が建設された所は、藩政時代には「千布沖田」と呼ばれる遊水池であった場所で、近年まで洪水被害に悩まされてきた所です。調整池は、220万 $m^3$ の貯水容量を有しており、運用開始後、幾度となく洪水を貯留したことで、佐賀市街地の洪水被害の軽減に寄与している他、約55haの広さを有していることから、動植物等の良好な生育、生息の場となっています。また、調整池の掘削工事中に、約7,000年前の縄文時代早期の貝塚や国内最古の木製品などの出土品が発見されており、調整池の役割と遺跡保存の共存を目指した整備を行っています。



### 4 国営吉野ヶ里歴史公園整備事業

..... 神埼市～神埼郡吉野ヶ里

国営吉野ヶ里歴史公園は、わが国固有の優れた文化的資産である吉野ヶ里遺跡の保存及び活用を図るため設置された国営公園で、佐賀県神埼市、神埼郡吉野ヶ里町にまたがる丘陵地にあり、面積は約54haです。また、公園の周囲には、遺跡の環境保全及び歴史公園としての機能の充実を図るために約63haの県立公園が計画されており、総面積約117haの区域が一体的な歴史公園として整備され、平成13年に約47haを第1期開園し、現在全体で約86haの整備が完了しています。また、整備の基本理念として、吉野ヶ里遺跡の保存を通じての本物へのこだわりと、適切な施設の復元やわかりやすい手触りの展示等の遺跡の活用を通じて、弥生時代を体感できる場を創出することとし、もって日本はもとより世界への情報発信の拠点とすることを理念に整備を進めています。

